| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅰ | 時期 | 1年次　後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 1単位(35時間) |
| 科目の概要 | 本実習は、看護学生として初めての臨地実習であり、看護師に同行して病棟の構造や設備、療養環境、看護活動を見学し、対象を取り巻く環境および看護師の役割について理解する。対象とコミュニケーションを図り、対象理解を深めるとともに、看護学生として必要な基本的態度および基礎的能力を修得し、今後の学習活動の基盤とする。 | | |
| 目 的 | 看護学の基礎知識を基に、対象の療養環境や看護活動の実際を知るとともに、コミュニケーション技術を含めた看護の対象を理解するための基礎的能力を修得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1 入院している対象の環境を理解する | 1）病棟の構造・設備の特徴を踏まえ、入院している対象の療養環境を説明する<br>2）療養環境を物的・人的視点から捉え、入院している対象に与える影響を説明する<br>3）療養環境における個別性を捉え、対象の状態・反応と関連づけて説明する |
| 2 病棟で行われている看護活動の実際を理解する | 1）療養上の世話の援助内容を対象の状態・反応を関連づけて説明する<br>2）診療上の補助の援助内容を対象の状態・反応を関連づけて説明する<br>3）看護・医療におけるコミュニケーションの目的を説明する<br>4）看護活動における観察の意味を捉え、対象の状態・反応と関連づけて説明する<br>5）看護活動における安全・安楽を捉え、対象の状態・反応と関連づけて説明する<br>6）看護活動における自立・自律を捉え、対象の状態・反応と関連づけて説明する<br>7）看護活動における個別性を捉え、対象の状態・反応と関連づけて説明する |
| 3 看護の対象との関係構築に向けたコミュニケーションを実践する | 1）対象の反応を捉え、接近的コミュニケーションと接近的行動を実践する<br>2）対象の反応を捉え、効果的コミュニケーションを実践する<br>3）自身のコミュニケーションと受け持ち患者の反応を説明する<br>4）自己のコミュニケーションを振り返る |
| 4 看護の対象を理解する | 1）受け持ち患者の入院・疾患・治療に対する思いを説明する<br>2）受け持ち患者の入院前後の生活の違いを説明する<br>3）受け持ち患者の発達段階を説明する<br>4）入院・疾患・治療が受け持ち患者の生活に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的側面から分析する<br>5）受け持ち患者に行われている看護活動を対象の状態・反応と関連づけて説明する |
| 5 看護師に求められる役割と自己の課題を明らかにする | 1）実習を振り返り、看護師に求められる役割について説明する<br>2）実習を振り返り、看護師を目指す上での自己の課題を明確にする |
| 6 看護専門職としての倫理的規範を身につける | 1）看護専門職としての倫理的責任を理解し、対象の尊厳と権利を尊重する<br>2）対象のプライバシーを守り、個人情報を適切に管理する<br>3）看護専門職を目指す学習者としての立場を理解し、主体的に学ぶ姿勢を示す<br>4）看護専門職としての責任を自覚し、自身の体調・生活を管理する<br>5）社会人基礎力を意識し、病院と学校の規則を遵守するとともにチームの一員としての自覚を持って行動する |

Ⅱ　実習構成

| 実 習 構 成 | 実 習 場 所 | 実習時間(日数) |
|---|---|---|
| 事前研修 | 学内 | 6.5H |
| 療養環境の理解<br>看護活動の理解<br>対象とのコミュニケーション<br>対象理解 | 県立新発田病院(病棟) | 26H(4日) |
| まとめ | 学内 | 2.5H |

Ⅲ 実習方法

1)学内実習(事前研修・オリエンテーション)

(1)臨地実習全体の概要

(2)基礎看護学実習Ⅰの概要

(3)新発田病院臨地実習指導者との交流会

(4)新発田病院看護部によるオリエンテーション

(5)2年生との交流会(実習における基本的な動きや実習に臨む姿勢について)

(6)学内オリエンテーション

(7)コミュニケーション演習

2)看護師に同行し、実際の看護の場、看護活動を見学する

3)患者とコミュニケーションを図る

4)実習の日程

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 学内ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>事前研修<br>(6.5H)<br>臨地実習全体<br>基礎看護学実習Ⅰについて | 病棟初日<br>病棟ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>看護師に同行<br>患者とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ | 病棟2日目<br><br>看護師に同行<br>患者とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ | 病棟3日目<br><br>看護師に同行<br>患者とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ | 病棟4日目<br>最終ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ<br>看護師に同行<br>患者とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ |
| 6日目 | | | | |
| 学内まとめ<br>(2.5H) | 記録提出 | | | |

5)最終カンファレンス

・病棟実習最終日に病棟にて、学生・臨地実習指導者・教員で行う

・テーマ「看護師に求められる役割と自己の課題」

6)学内実習(まとめ)

・実習目標に基づき、以下の内容について実習グループで意見交換し、まとめる

【内容(例)】

〇療養環境

〇看護活動

〇コミュニケーション

〇対象理解

〇看護師に求められる能力

〇今後の課題

Ⅳ 実習記録

基礎看護学実習Ⅰの様式による

Ⅴ 実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅱ | 時期 | 2年次　前期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 1単位(35 時間) |
| 科目の概要 | 本実習では、基礎看護学実習Ⅰで修得した患者を取り巻く環境への理解、対象理解のためのコミュニケーション技術等の内容をふまえて、健康障害により入院生活を送っている対象を受け持ち、信頼関係を基盤とした援助的な関係性を築きながら機能的健康パターンを用いて対象を理解する。既習の知識、技術から受け持ち患者のバイタルサイン測定、根拠ある観察、対象に必要な環境整備を実践する。また、対象に行われている看護の実際を見学または一部介助し、その根拠と意味を帰納的に考え学ぶことを目的とする。本実習で学ぶ看護の思考を、基礎看護学実習Ⅲで実践する看護過程のプロセスへと繋げることを目的とする。さらに、本実習をとおして、看護専門職としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践する基礎的能力を養うことを目的とする。 | | |
| 目 的 | 健康障害をもつ対象を受け持ち、機能的健康パターンを用いて対象を理解し、看護の実際から根拠と意味を学ぶとともに、看護専門職としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実　習　目　標 | 行　動　目　標 |
|---|---|
| 1　対象を尊重し、援助的な人間関係を構築する | 1）対象に深い関心を寄せ、対象の価値観を尊重した態度で接する<br>2）対象の状況・状態に応じたコミュニケーション技法を考え行動する<br>3）対象の示す言語的・非言語的コミュニケーションの意味を考え、反応する<br>4）対象との援助的な人間関係を構築する |
| 2　機能的健康パターンの一部分を用いて対象を分析・解釈する | 1）コミュニケーション技術を活用しながら、対象理解に必要な情報を収集する<br>2）対象が抱える病態・症状、機能障害、治療内容、治療経過を分析・解釈する<br>3）得られた情報を機能的健康パターンの枠組みに分類・整理する<br>4）対象の健康障害が日常生活行動に及ぼす影響を分析・解釈する |
| 3　機能的健康パターンの分析・解釈から、フィジカルアセスメントを実践する | 1）正確にバイタルサイン測定を実践する<br>2）機能的健康パターンの分析・解釈から、根拠を考えたフィジカルアセスメントを述べる<br>3）機能的健康パターンの分析・解釈から、対象の症状や苦痛に配慮してフィジカルアセスメントを実践する |
| 4　機能的健康パターンの分析・解釈から、対象に必要な環境整備を実践する | 1）機能的健康パターンの分析・解釈から、対象に必要な環境整備を述べる<br>2）機能的健康パターンの分析・解釈をふまえ、環境整備を実践する<br>3）対象の症状や苦痛に配慮して環境整備を実践する<br>4）実践した環境整備を客観的に振り返る |
| 5　機能的健康パターンの分析・解釈をふまえ、看護の実際から看護援助の根拠を考える | 1）対象に行われている看護援助を見学または一部介助し、どのような配慮・工夫がされているかを説明する<br>2）対象に行われている看護援助で、配慮・工夫されていた根拠を説明する<br>3）根拠をふまえた看護援助の意義について述べる |
| 6　看護専門職として、倫理に基づいた言動・行動・態度を身につける | 1）実習中に知り得た患者・家族及び医療者の情報等に関して守秘義務を守る<br>2）対象の尊厳及び権利を尊重した言動・行動・態度を示す<br>3）主体的に学習し、対象への看護を追求する姿勢を示す<br>4）看護専門職としての自覚を持ち、主体的に報告・連絡・相談する<br>5）自己を客観的に日々省察し、自己の課題を見出す |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実　習　場　所 | 実習時間（日数） |
|---|---|---|
| 学内実習 | 学内 | 6H |
| 健康障害のある対象の理解と援助 | 県立新発田病院（病棟） | ２6H |
| 学内実習（まとめ） | 学内 | 3H |

Ⅲ　実習方法

1）学内実習（オリエンテーション）

（1）基礎看護学実習Ⅱの内容についてオリエンテーションを受ける。

（2）バイタルサイン測定の技術を各自復習・練習しておく。

2）対象を受け持ち、機能的健康パターンを用いて理解する。

（1）実習１日目、カルテから必要な情報を収集し対象理解を深める。対象と関係構築を図り、看護師が実践するバイタルサイン測定・フィジカルアセスメントを見学する。

（2）実習２日目より、対象と関係構築を図りながら、必要なバイタルサイン測定・フィジカルアセスメントを実践する。

（3）対象に実践されている看護援助を見学または一部介助しながら、看護援助の根拠を考える。

3）実習の日程　【事前オリ３H】

| １日目 | 2日目【6. 5H】 | 3日目【6. 5H】 | 4日目【6. 5H】 | 5日目【6. 5H】 |
|---|---|---|---|---|
| 学内オリエンテーション(3H)<br>病棟で、PC 使用方法、受け持ち患者の情報収集をカルテから実施する<br>＊時間をずらして教員とともに病棟へ向かう | 病棟 1 日目<br>病棟オリエンテーション<br>受け持ち患者への挨拶<br>受持ち患者の看護援助見学<br>バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント<br>情報収集と分析・解釈<br>環境整備の実践 | 病棟 2 日目<br>看護実践場面から、根拠を考える。 | 病棟 3 日目 | 病棟 4 日目 |
| 6日目 | | | | |
| 学内まとめ(3H) | 記録提出 | | | |

3）最終カンファレンス

・病棟実習最終日に病棟にて、学生・臨地実習指導者・教員で行う。

4）学内実習（まとめ）

・実習目標に基づいて気づきや学びを意見交換（グループワーク）し、自己の課題を明確にする。

Ⅳ　実習記録

基礎看護学実習Ⅱの様式による。

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する。

| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅲ | 時期 | 2年次　後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間) |
| 科目の概要 | 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで修得した関係構築、対象理解の内容をふまえ、既修の知識・技術、看護過程を用いて対象の個別性に応じた看護を実践する。また、本実習を通して、看護専門職としての基本的な態度や倫理を含む基盤的な看護実践能力を養い、自己の課題を明確にし、続いて行われる領域別看護学実習を展開するための土台とする。 | | |
| 目 的 | 健康障害を持つ対象を受け持ち、看護過程の技法を用いて対象の個別性に応じた看護を実践するための基礎的能力と看護職として必要な態度を修得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1　対象理解に繋げる関係性を構築する | 1）対象が発するメッセージの意味や感情の理解を深め、相互に信頼できる関係性を築くための言動・行動・態度を示す<br>2）看護に繋がる必要な情報を引き出すコミュニケーションを図る<br>3）対象理解に必要な情報を適した方法から意図的に収集する |
| 2　ゴードンの機能的健康パターンを用いて対象を総合的にアセスメントする | 1）得られた情報をゴードンの機能的健康パターンの枠組みに分類・整理する<br>2）対象の疾患の病態生理や機能障害のメカニズム、治療経過をふまえて分析・解釈する<br>3）対象の健康障害が日常生活行動に及ぼす影響を分析・解釈する<br>4）分析・解釈した内容を情報関連図として記述する<br>5）情報関連図をもとに対象の全体像を把握し、看護の方向性を記述する |
| 3　対象の看護問題を明確にする | 1）看護問題の原因（関連因子・危険因子）・要因を記述する<br>2）看護問題に対処しなかった場合の成り行きを記述する<br>3）看護問題に関連する対象の対処能力（もてる力）を記述する<br>4）看護問題は関連因子や危険因子をふまえて表記している |
| 4　対象の看護問題を解決するための看護計画を立案する | 1）看護問題を解決するための長期目標を設定している<br>2）短期目標（期待される成果）は評価可能な行動レベル（現実的、判定・測定可能、行動可能、達成可能）に即して記述する<br>3）目標達成に向けて、対象の個別性（希望・安全性・安楽性・自立性等）を反映した具体策を記述する |
| 5　立案した看護計画の具体策を科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立に配慮して実施する | 1）実施する援助の必要性や根拠を対象の状態をふまえて説明する<br>2）対象に援助内容・方法を説明し、了承を得る<br>3）対象の状況に応じた安全・安楽を考慮して実施する<br>4）対象のプライバシーに配慮して実践する<br>5）実施した看護を対象の反応や援助結果をふまえて記述する |
| 6　実施した看護を評価する | 1）日々の看護実践で振り返ったことを翌日の看護実践と看護計画の追加・修正に活かす<br>2）一連の看護実践を振り返り、看護目標の評価とその要因、介入の妥当性について根拠をふまえて振り返る |
| 7　看護専門職として主体的かつ継続的に学ぶ姿勢を身につける | 1）個人情報を適切に管理するとともに守秘義務を遵守する<br>2）主体的かつ継続的な学習により自己の能力維持・開発に努める<br>3）看護チームの一員としての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談ができる |
| 8　実習を通して学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする | 1）看護実践の体験を通して、自身の考える看護について参考・引用文献を用いて記述する<br>2）実習全体を振り返り、自己の今後の課題を記述する |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間 |
|---|---|---|
| 学内実習 | 学内 | １１．５H |
| 健康障害をある対象の看護 | 県立新発田病院（病棟） | ５８．５H |

Ⅲ　実習方法

１）１日目の学内実習では、実習オリエンテーションを実施する。また、２日目の学内実習では、病棟別オリエンテーションと受け持ち患者情報に基づいて自己学習を行う。

２）病棟実習では、対象を受け持ち、看護過程を展開し、看護を実践する。

３）４日目の午後は、学内にて情報整理・分析、情報関連図をまとめ、対象の理解に繋げる。

３）１２日目の学内実習では、実習目標に基づいて気づきや学びを意見交換（グループワーク）し、自己の課題を明確にする。

４）実習日程及び内容

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 |
|---|---|---|---|
| 学内実習（3H）<br>・実習オリエンテーション | 学内実習（3H）<br>・病棟別オリエンテーション | 病棟実習①<br>・病棟オリエンテーション<br>・受け持ち患者の情報収集や援助の実際の見学 | 病棟実習② |
| 5日目 | 6日目 | 7日目 | 8日目 |
| 病棟実習③ | 病棟実習④<br>PM:学内 | 病棟実習⑤<br>・看護の方向性カンファレンス | 病棟実習⑥<br>・看護計画カンファレンス |
| 9日目 | １０日目 | １１日目 | １２日目 |
| 病棟実習⑦<br>・看護計画カンファレンス<br>（予備日） | 病棟実習⑧ | 病棟実習⑨<br>・最終カンファレンス | 学内実習（5.5H） |
| | | | |
| 記録提出 | | | |

５）カンファレンス

・毎日のカンファレンス（15時30分～16時）は学内で実施する。テーマはメンバーで相談し、リーダーと担当教員で打合せする。
（例：患者との関わりで困っていること、看護過程の展開で困っていること）

・看護の方向性カンファレンスおよび看護計画カンファレンスについては、病棟で臨地実習指導者を交えて実施する。

Ⅳ　実習記録

基礎看護学実習Ⅲの様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 地域・在宅看護論実習 | 時期 | ３年次　前期・後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 科目の概要 | 地域で暮らす看護の対象が抱える生活上の課題を理解し、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションの機能と役割の実際から住み慣れた地域で療養生活を継続するための医療・介護・福祉チームの連携と看護の役割について学ぶ。 | | |
| 目 的 | 地域で暮らす看護の対象を理解し、地域・在宅看護を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1 地域包括支援センターを必要とする対象が抱える課題と支援体制の実際を理解する | 1）地域包括支援センターを必要とする対象の特徴と生活上の課題解決に向けた社会資源の活用方法を説明する<br>2）地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの機能と役割の実際を説明する |
| 2 居宅介護支援事業所を利用する対象が抱える課題と在宅療養を支えるケアマネジメントの実際を理解する | 1）居宅介護支援事業所を利用する対象の特徴と生活上の課題解決に向けた社会資源の活用方法を説明する<br>2）地域包括ケアシステムにおける居宅介護支援事業所の機能と役割の実際を説明する |
| 3 訪問看護ステーションを利用する対象が抱える課題と在宅療養を支える看護の実際を理解する | 1）訪問看護を利用する療養者・家族の心身機能の特徴を説明する<br>2）訪問看護を利用する療養者・家族の生活環境を説明する<br>3）訪問看護を利用する療養者・家族の社会資源の活用方法を説明する<br>4）訪問看護ステーションで立案されている看護問題の背景要因を分析する<br>5）訪問看護ステーションで立案されている看護目標の設定理由を分析する<br>6）訪問看護ステーションで立案されている看護計画の根拠を分析する<br>7）療養者・家族を一単位として捉え、在宅看護における支援内容を説明する<br>8）療養者・家族の意思・生活状況を踏まえ、主体性を尊重した支援内容を説明する<br>9）療養者・家族のセルフマネジメント能力を分析し、生活状況に応じた支援内容を説明する<br>10）療養者・家族のリスクマネジメント能力を分析し、生活状況に応じた支援内容を説明する<br>11）地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの機能と役割の実際を説明する |
| 4 地域包括ケアシステムにおける医療・介護・福祉チームの連携の実際と看護の役割を考察する | 1）地域包括支援センターにおける医療・介護・福祉チームの連携の実際を説明する<br>2）居宅介護支援事業所における医療・介護・福祉チームの連携の実際を説明する<br>3）訪問看護ステーションにおける医療・介護・福祉チームの連携の実際を説明する<br>4）地域包括ケアシステムを推進する上でのチームにおける看護師の役割について説明する<br>5）訪問看護の特性から地域・在宅看護に求められる役割について考察する<br>6）地域・在宅看護の現状と今後の課題を考察する |
| 5 地域・在宅看護を実践するために必要な倫理観と基本的な技術・態度を身につける | 1）地域・在宅看護を実践する看護職に求められる倫理観を理解し、行動・態度で示す<br>2）地域・在宅看護に必要な知識および技術を修得する機会を主体的に求める<br>3）地域・在宅看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、生活者としての尊厳を尊重したコミュニケーションを実践する |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間 |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内 | 3H |
| 地域包括支援センターの機能と役割 | 地域包括支援センター | 7.5H |
| 居宅介護支援事業所におけるケアマネジメント | 居宅介護支援事業所 | 7.5H |
| 訪問看護ステーションにおける看護 | 訪問看護ステーション | 47H |
| 実習のまとめ | 学内 | 5H |

Ⅲ 実習方法

1)学内オリエンテーションでは、実習目的、達成目標を確認し、施設の概要、留意事項の説明を受ける。

2)地域包括支援センターでは、専門職(主任ケアマネジャー・社会福祉士・保健師または看護師)に同行し、地域の実情、施策に合わせた活動内容を見学する。

3)居宅介護支援事業所では、ケアマネジャーに同行し、療養者の居宅(自宅または施設)を訪問してモニタリングやサービス担当者会議等を見学する。

4)訪問看護ステーションでは、訪問看護師に同行し、療養者の居宅(自宅または施設)を訪問して看護活動の実際を見学する。また、学生が実施可能な援助は、訪問看護師の見守りのもと実践する。

5)訪問看護ステーションでは、実習期間中の訪問事例から１事例選定し、看護上の問題、看護目標、看護計画の内容を分析する。

6)実習施設ごとに施設の担当者と共に学びのカンファレンスを実施する。

7)最終日の学内では、各施設の学びを共有する。

8)実習の日程(各実習グループにより日程が異なる)

| １日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 実習オリエンテーション<br>（3H） | 地域包括支援センター<br>（7.5H）<br>学びのカンファレンス | 居宅介護支援事業所<br>（7.5H）<br>学びのカンファレンス | 訪問看護ステーション<br>（8H） | 訪問看護ステーション<br>（5H） |
| 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
| 訪問看護ステーション<br>（8H） | 訪問看護ステーション<br>（5H） | 訪問看護ステーション<br>（8H） | 訪問看護ステーション<br>（5H） | 訪問看護ステーション<br>（8H）<br>学びのカンファレンス |
| 11日目 | | | | |
| 学内<br>（5H） | 記録提出 | | | |

Ⅳ 実習記録

地域・在宅看護論実習の記録様式を使用する

Ⅴ 実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 成人･老年看護学実習Ⅰ | 時期 | 2年次　後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 実習概要 | 回復期･慢性期にある成人期または老年期の対象の健康レベルとライフサイクルからみた成人期･老年期の発達段階を理解し、看護過程の展開を通して対象とその家族への看護を実践し、必要な能力を養い、回復期･慢性期看護のあり方を学ぶ。また、健康障害を受容し、セルフケア及びセルフマネジメント能力獲得に向けた支援と健康の維持･増進と対象を支えるための保健･医療･福祉における看護の役割とチーム体制を理解する。 | | |
| 目 的 | 回復期･慢性期にある成人期または老年期の対象とその家族を理解し、セルフケア･セルフマネジメントの獲得を促す看護を実践するための基本的な知識･技術･態度を修得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実　習　目　標 | 行　動　目　標 |
|---|---|
| 1　回復期・慢性期にある対象への支援の特徴を理解し、セルフケア及びセルフマネジメントの状況をアセスメントし、対象の全体像を把握し、看護上の問題を明確化する | 1）対象の病態情報を収集し要約してアセスメントする<br>2）ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて情報を体系的に分類する<br>3）成人・老年各期の身体機能・心理社会的機能をふまえ対象の状況をアセスメントする<br>4）対象の病態と身体機能・心理社会的機能をふまえ、対象の状況をアセスメントする<br>5）対象の病態や健康障害、生活や心理社会文化的影響について情報を関連付けながら統合して全体像を説明する<br>6）慢性期・回復期にある対象の実在型、リスク型問題を明確化する |
| 2　対象や家族にとってのセルフケア及びセルフマネジメントを支援する看護計画を立案する | 1）根拠をもって健康問題の優先順位を決定する<br>2）対象の意見や希望を考慮しながら、対象に応じた長期目標と短期目標を設定し説明する<br>3）対象の意見や希望を考慮しながら、根拠に基づいた個別的かつ具体的な看護計画を立案する |
| 3　計画した看護援助を対象の状況に合わせて実施し、客観的かつ対象の立場の視点で評価する | 1）実施する看護について対象に合わせた説明をする<br>2）対象の反応に合わせて、安全、安楽、個別性を考えながら計画に基づいて実施する<br>3）対象・家族の話をよく聞き、理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かるように伝える<br>4）対象やその家族の自己効力感に着目し、対象の意欲に応じた関わりを実施する<br>5）対象の入院中および退院後における生活の再構築（または機能維持・悪化予防）に向けた援助を、セルフケア及びセルフマネジメント理論による根拠に基づき実施する<br>6）日々設定した看護目標や計画、実施が対象にとって最良の状態であるかを客観的に評価し必要に応じて計画を追加・修正する<br>7）一連の看護実践を振り返り、設定した看護目標の評価とその要因、介入の妥当性について根拠をふまえて振り返る<br>8）対象への安全・安楽・倫理に配慮した看護実践に向けた知識・技術・態度を習得する機会を求める |
| 4　対象と家族がセルフケア及びセルフマネジメントにより自分らしい生活を実現するための看護の価値を考察する | 1）看護実践場面をもとに、セルフケア及びセルフマネジメントによる自分らしい生活に向けた看護で大切なことについて自己の考えを示す<br>2）疾病や障害を持ちながら生きる人やその家族の思い、生活を支えるための看護師の役割について自己の考えを示す |
| 5　看護専門職としてふさわしい態度を身につける | 1）必要に応じて、学生間・医療スタッフ・教員と情報共有・意見交換・報告・連絡・相談を適切に行う<br>2）主体的に実習に臨み、周囲への影響を考慮した行動をとる（身だしなみ、言葉使い、挨拶、約束・ルールを守る、学習、カンファレンス、自己の心身の健康管理など）<br>3）対象や家族の尊厳を守り、誠実な態度で対応する<br>4）カンファレンスに積極的に参加し、主体的に学習を進める |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間 |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内 | 5H |
| 回復期・慢性期にある患者の看護 | 県立新発田病院（病棟） | 65H |

Ⅲ　実習方法

1）実習オリエンテーションでは、患者選定と事前学習、回復期・慢性期の看護に関する事前学習を行う

2）回復期・慢性期にある対象を受け持ち、セルフケア及びセルフマネジメント能力獲得を推進するための看護を看護過程に沿って展開する

3）実習の日程

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 学内ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>（5H）患者選定 | 病棟ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ | | | |
| 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
| 看護の方向性ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 看護計画ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 看護計画ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ<br>中間評価 | ﾃｰﾏｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | ﾃｰﾏｶﾝﾌｧﾚﾝｽ |
| 11日目 | | | | |
| 最終ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 記録提出 | | | |

3）テーマカンファレンスの内容

テーマカンファレンス：テーマに合わせて実践内容をもとにメンバーが意見を出し合う

・病棟実習８日目９日目どちらかに学内で実施する。学生・教員で行う。

・下記内容を参考にグループで深めたいテーマを検討する。カンファレンス前に事前学習を行い、各自必要な資料を準備する。

・グループリーダーがメンバーと話し合い前日までにテーマを決め教員に報告する。

【テーマの例】

〇エンパワメントを考えた支援

〇セルフケアの獲得とセルフマネジメントを推進する看護実践

〇合併症と二次障害を予防する看護

〇行動変容を促進する看護アプローチ

〇退院後の生活を意識した支援

〇もてる力をいかして看護をすること

〇社会資源（ソーシャルサポート）の活用

Ⅳ　実習記録

成人・老年看護学実習Ⅰの様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 成人･老年看護学実習Ⅱ | 時期 | ３年次　前期･後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 実習概要 | 周手術期や生命の危機状態にある対象の健康レベルとライフサイクルからみた成人期･老年期の発達段階を理解し、対象とその家族の状態･状況に応じた看護を実践するために必要な能力を養い、急性期看護のあり方を学ぶ。受け持ち患者の手術見学および集中治療室 ICU･CCU での見学実習を通して急性期における看護実践方法･役割、チーム医療について考えを深める。 | | |
| 目 的 | 急性期にある対象とその家族を理解し、生命維持･健康回復への看護を実践するための知識･技術･態度を修得する | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1　周手術期にある対象への支援の特徴を理解し、術前・術中・術後の生体反応や合併症予防、日常生活の自立/自律の状況をアセスメントし、対象の全体像を把握し、看護上の問題を明確化する。 | 1）周手術期にある対象の病態情報を収集し要約してアセスメントする<br>2）ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて情報を体系的に分類する<br>3）成人・老年各期の身体機能・心理社会的機能をふまえ対象の状況をアセスメントする<br>4）周手術期の病態と心理社会的機能をふまえ、対象の状況をアセスメントする<br>5）周手術期の病態や健康障害、生活や心理社会文化的影響について情報を関連付けながら統合して全体像を説明する<br>6）周手術期にある対象の実在型、リスク型問題を明確化する |
| 2　術前・術中・術後の合併症予防や日常生活の自立/自律を支援する看護計画を立案する | 1）根拠をもって健康問題の優先順位を決定する<br>2）対象の意見や希望を考慮しながら、対象に応じた長期目標と短期目標を設定し説明する<br>3）対象の意見や希望を考慮しながら、根拠に基づいた個別的かつ具体的な看護計画を立案する |
| 3　計画した看護援助を対象の状況に合わせて実施し、客観的かつ対象の立場の視点で評価する | 1）実施する看護計画について対象に合わせた説明をする<br>2）対象が心身ともに最良の状態で手術を受けられるような援助を考え記述する<br>3）術中の状況・様子をふまえ、術後の適切な観察を実施する<br>4）離床に伴う不安・苦痛に共感しながら、術後の合併症を予測し予防するための援助を実施する<br>5）自立した退院後の生活の再構築を目指し、急性期から回復期に応じた援助を実施する<br>6）日々設定した看護目標や計画、実践が対象にとって最良の状態であるか客観的に評価し必要に応じて計画を追加修正する<br>7）一連の看護実践を振り返り、看護目標の評価とその要因、介入の妥当性について根拠をふまえて振り返る<br>8）対象への安全・安楽・倫理に配慮した看護実践に向けた知識・技術・態度を修得する機会を求める |
| 4　手術を受ける対象・家族が健康回復に向かうための看護の価値を考察する | 1）具体的な看護実践場面を通して、手術を受ける対象・家族が健康回復に向かうための看護で大切なことについて自己の考えを示す<br>2）周手術期における看護師の役割について自己の考えを示す |
| 5　救命救急センターの機能と役割、急性期の状態にある対象および家族への看護を理解する | 1）急性期における看護実践の根拠や看護上の留意点、倫理的配慮を説明する<br>2）救命センターの機能と役割、急性期の状態にある対象および家族への看護に対する自己の考えを示す |
| 6　看護専門職としてふさわしい態度を身につける | 1）必要に応じて、学生間・医療スタッフ・教員と情報共有・意見交換・報告・連絡・相談を適切に行う<br>2）主体的に実習に臨み、周囲への影響を考慮した行動をとる（身だしなみ、言葉使い、挨拶、約束・ルールを守る、学習、カンファレンス、自己の心身の健康管理など）<br>3）対象や家族の尊厳を守り、誠実な対応をする<br>4）カンファレンスに積極的に参加し、主体的に学習を進める |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間 |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内 | 5H |
| 周手術期にある対象への看護 | 県立新発田病院（病棟・手術室） | 58.5H |
| 生命の危機状態で集中治療を要する対象への看護 | 県立新発田病院（集中治療室 ICU・CCU） | 6.5H |

Ⅲ　実習方法

1）実習オリエンテーションでは、患者選定と関連する事前学習、手術室看護、ICU・CCU に関する事前学習を行う

2）周手術期（術前・術後）にある対象を受け持ち、看護過程のプロセスに沿って実習を展開する

3）受持ち患者の手術を見学し、術中の状況・様子をふまえ、術後の適切な観察を実施する

4）救命救急センター（ICU・CCU）の看護師に同行し、生命の危機状態にあり集中治療を要する対象および家族への看護を見学する

5）実習の日程

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 学内ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>（5H）患者選定 | 病棟ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ | | | 看護の方向性ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ |
| 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
| 看護計画ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 看護計画ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 中間評価 | | 最終ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ |
| 11日目 | | | | |
| 集中治療室 ICU･CCU<br>見学実習<br>学びのカンファレンス | 記録提出 | | | |

5）カンファレンス

（1）最終カンファレンス

・病棟実習最終日に病棟にて、学生・臨地実習指導者・教員で行う

・テーマ例「手術を受ける対象・家族が健康回復に向かうための看護で大切なこと」

（2）集中治療室 ICU・CCU：学びのカンファレンス

・ICU・CCU 実習時間内に臨地にて、学生・臨地実習指導者・教員で行う

・テーマ例「救命救急センターの看護の機能と役割について」

Ⅳ　実習記録

成人・老年看護学実習Ⅱの様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 成人･老年看護学実習 Ⅲ | 時期 | 3年次 前期･後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 実習概要 | 人生の最終段階にある対象とその家族を身体的、精神的、社会的、霊的(スピリチュアル)、文化的側面から総合的に捉え、看護過程の展開を通して対象の QOL 維持･向上にむけた看護を学ぶ。対象とその家族のライフスタイルと生活環境を踏まえたその人らしい生活のあり方を捉え、終末期･治癒及び回復が困難な状態にある対象とその家族への看護師の役割･機能を考える。 | | |
| 目 的 | 終末期･治癒及び回復が困難な状態にある対象とその家族を理解し、その人らしく安楽に過ごせるような看護を実践するための知識･技術･態度を習得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1 成人期・老年期の終末期・治癒及び回復が困難な状態にある対象と家族を理解する | 1）終末期・治癒及び回復が困難な状態にある成人期・老年期の対象の発達段階や病状の理解に関する情報を収集する<br>2）対象の身体的・心理的・社会的・霊的(スピリチュアル)、文化的側面から情報収集し説明する<br>3）これまでのライフスタイルと生活環境をふまえ、その人らしい生活のあり方を説明する |
| 2 終末期・治癒及び回復が困難な状態にある対象の健康問題を理解する | 1）対象に生じている器質的変化・機能的変化、症状を、解剖生理、病態生理、機能障害のメカニズムの知識に基づき説明する<br>2）対象への検査・治療・処置の目的とそれが身体的・心理的・社会的・霊的(スピリチュアル)･文化的側面に及ぼす影響について説明する<br>3）健康障害や治療が対象の日常生活に及ぼす影響について説明する<br>4）対象が、疾病や治療による状態の変化と影響をどのように受け止め対処しているか説明する<br>5）予測される機能変化や合併症とその対応について説明する<br>6）対象の身体・生活・心理・スピリチュアル・社会・文化的視点、全人的苦痛の視点からの情報を系統的に関連付け、統合的に分析・解釈する<br>7）系統的に分析・解釈した内容から全体像を説明する<br>8）アセスメントを統合し、全人的苦痛、QOL、その人らしさ、安楽の観点から看護の方向性を決定する |
| 3 終末期・治癒及び回復が困難な状態にある対象の健康状態や状況に応じた看護を実践する | 1）健康問題の根拠を原因・誘因、成り行きから分析し看護の方向性を決定する<br>2）QOL の考えに基づき対象やその家族の選択権、自己決定権を尊重し実現可能な目標を対象や家族とともに共有する<br>3）対象の身体・生活・心理・社会・文化的特徴と科学的根拠に基づいた個別的な看護計画を立案する<br>4）日々対象の症状・反応の変化を観察しながら、個別的で安全・安楽・自立に配慮した援助を実施する<br>5）対象や対象の家族の全人的苦痛を最小限にするために安楽に向けた援助を実施する<br>6）対象の希望や思いを考慮した上で、状態の変化を把握し、必要に応じて方法の変更や中止を検討する<br>7）日々設定した目標や計画、実施が対象にとって最良の状態であるかどうかを評価し修正する<br>8）実施した援助を客観的に振り返り、根拠をふまえ批判的かつ論理的に吟味して根拠に基づき看護計画を評価する |
| 4 看護専門職として多職種と連携・協働する必要性を理解する | 1）終末期・治癒及び回復が困難な状態にある対象に応じた多職種協働によるチームアプローチの必要性を説明する<br>2）対象と家族に応じた療養の場への移行に伴う必要な援助を説明する<br>3）保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割がわかり自己の考えを述べる |
| 5 対象への看護実践を通して、看護に対する価値を見出す | 1）終末期・治癒及び回復が困難な状態にある対象と家族の看護において、看護師としてどのような態度であるべきか文献を用いて自己の考えを述べる<br>2）対象の看護実践場面をもとに対象の安楽に向けた看護で大切なことについて文献を用いて自己の考えを述べる |

| | |
|---|---|
| 6 看護専門職としてふさわしい態度を身につける | 1）主体的に実習に臨み、周囲への影響を考慮した行動をする（身だしなみ、言葉遣い、挨拶、約束・ルールを守る、学習、カンファレンス、自己の心身の健康管理など）<br>2）対象や家族の尊厳を守り、誠実な対応をする<br>3）必要に応じて、学生間・医療スタッフ・教員と情報共有・意見交換・報告・連絡・相談を適切に行う |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間（日数） |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内 | 5H　（1日） |
| 終末期にある対象と家族の看護 | 県立新発田病院（病棟） | 65H　（10日） |

Ⅲ　実習方法

1）実習オリエンテーションでは患者選定と事前学習、必要時技術演習を実施する。

2）病棟実習では終末期・治癒及び回復が困難な対象とその家族を受け持ち、看護過程を展開する。

3）受け持ち対象がいない場合は同行実習を行う。

4）実習の日程

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 学内オリエンテーション(5H) | 病棟オリエンテーション<br>患者を受持ち看護過程のプロセスにそって実習展開 | | | 看護の方向性カンファレンス |
| 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
| 看護計画カンファレンス | 看護計画カンファレンス | 中間評価 | テーマカンファレンス | |
| 11日目 | | | | |
| 最終カンファレンス | 記録提出 | | | |

5）テーマカンファレンス

・終末期・治癒及び回復が困難な状態にある対象と家族の看護において、看護師としてどのような態度であるべきか自己の考えをカンファレンス時に述べる（レポートあり）

・カンファレンス前にレポートを記載し、各自必要な資料を準備する。

Ⅳ　実習記録

成人・老年看護学実習 Ⅲ の様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 老年看護学実習 | 時期 | 3年次 前期・後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 科目の概要 | 老年期における対象の生活史や生きてきた時代背景に興味・関心を持ち、多様性・価値観を尊重したコミュニケーションを学ぶ。高齢者を生活者として捉え、生活機能の観点から看護過程を展開する。また、加齢変化と疾患により、その人らしい生活を妨げる健康問題と対象の“もてる力”を理解し、健康逸脱から回復促進、QOL 維持・向上にむけた看護を学ぶ。高齢者と家族を取り巻く環境を理解し、多様な生活の場を支えるための保健・医療・福祉の役割と多職種連携・協働の必要性を学ぶ。 | | |
| 目 的 | 老年期にある対象者とその家族を理解し、多様な生活・療養の場に向けた看護の基礎となる知識・技術・態度を修得する | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1　老年期にある対象の特徴を捉え、その人らしい生活を送る上での健康問題と“もてる力”を理解する | 1）対象のこれまでの生活環境・生活行動についての情報を収集する<br>2）老年期の特徴と疾患・入院・治療を捉え、身体的、心理・霊的、社会・文化的側面から情報を収集する<br>3）入院に伴いその人らしい生活を妨げる要因を身体的、心理・霊的、社会・文化的側面から分析する<br>4）対象の健康逸脱から回復促進に向けたもてる力を分析する<br>5）老年期にある対象を生活者として捉え、その人らしい生活のあり方を分析する<br>6）老年期にある対象のその人らしい生活に影響を与える原因・誘因を分析し、健康問題で説明する |
| 2　老年期にある対象の生活機能に着目し、その人らしい生活に向けた看護計画を立案する | 1）加齢変化と病態による生活への影響を考え、病態・生活機能関連図で説明する<br>2）対象のもてる力と、生活に及ぼす影響を踏まえて看護の焦点を明らかにする<br>3）その人らしい生活に影響を及ぼす看護の焦点の優先度を生活機能の観点から決定する<br>4）看護の焦点について根拠、成り行きを説明し、長期目標と短期目標を設定し説明する<br>5）対象のもてる力を活かした根拠のある看護計画を立案する<br>6）対象の特徴と反応を踏まえ、実施する看護の根拠・目的・方法について説明する<br>7）対象の健康状態を把握し、必要に応じて援助の変更や中止を検討する<br>8）対象の反応から実践した看護を振り返り、必要に合わせて看護計画を追加・修正する |
| 3　老年期にある対象の“もてる力”を活かし、対象の状態に応じた援助を実践し、評価する | 1）対象の生活史や生きてきた時代背景を踏まえ、人格・尊厳・価値観を尊重したコミュニケーションを実践する<br>2）対象のその人らしい生活や QOL の維持・向上を踏まえた看護を実践する<br>3）対象のもてる力、自立の視点で援助を実践する<br>4）対象の健康状態・状況に合わせて安全・安楽に留意した援助方法を選択し、対象の反応を捉えながら実践する<br>5）対象のその人らしい生活と生活機能を踏まえた一連の看護実践を振り返り、看護目標の評価とその要因、介入の妥当性について根拠を踏まえて総合的に評価する |
| 4　介護老人福祉施設やデイサービスを利用し、地域で生活する高齢者の実際と看護の役割を理解する | 1）介護老人福祉施設の利用者のケア環境と施設における看護の役割、多職種連携・協働について説明する<br>2）デイサービスの利用目的とケア環境から高齢者の生活を支える看護の役割、多職種連携・協働について説明する |
| 5　多様な場で生活する高齢者のその人らしい生活を支える保健・医療・福祉における看護師の役割を考察する | 1）生活機能に着目し、その人らしい生活に向けた看護実践と退院支援における看護師の役割と多職種との連携・協働について自己の考えを述べる<br>2）高齢者を生活者として捉え、高齢者を取り巻く多様な生活の場を支える看護師の役割と多職種との連携・協働について自己の考えを述べる |
| 6　看護専門職としてふさわしい態度を身につける | 1）対象者の援助に必要な知識・技術・態度を修得するための機会を積極的に求める<br>2）看護職者としてふさわしい態度・行動を示す<br>3）自身の健康管理を行い、チームの一員として行動する |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間 |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内 | 6H |
| 老年期にある対象への看護 | 県立新発田病院（病棟） | 52H |
| 施設で生活する高齢者の看護の実際 | 特別養護老人ホーム | 6H |
| 地域で生活しデイサービスを利用する高齢者の看護の実際 | デイサービスセンター | 6H |

Ⅲ　実習方法

1）　実習オリエンテーションでは、患者選定と事前学習、必要時技術演習を実施する。
2）　病棟実習では、65 歳以上の老年期にある対象を受け持ち、もてる力を活かした看護過程を展開する。
3）　特別養護老人ホーム実習では、施設で生活する高齢者への看護活動の実際を担当者に同行して見学し、見守りのもと実践する。
4）　デイサービスセンター実習では、地域で生活しデイサービスを利用する高齢者への看護活動の実際を担当者に同行して見学し、見守りのもと実践する。
5）　実習の日程

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 実習オリエンテーション（6H） | 病棟オリエンテーション | | | 看護の方向性カンファレンス |
| 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
| 看護計画カンファレンス | 看護計画カンファレンス<br>中間評価 | | 最終カンファレンス | 特別養護老人ホームまたはデイサービスセンター（6H） |
| 11日目 | | | | |
| 特別養護老人ホームまたはデイサービスセンター（6H）<br>学びのカンファレンス | 記録提出 | | | |

6）　カンファレンスの内容

カンファレンス：テーマに合わせて実践内容をもとにメンバーが意見を出し合う

（1）最終カンファレンス：病棟実習最終日に病棟にて学生・実習指導者・教員で行う。
- 実習で受け持った事例をもとに以下のテーマに合わせて実践した看護を振り返る。
- テーマ「老年期にある対象者の生活機能に着目し、その人らしい生活に向けた看護実践と退院支援における看護師の役割と多職種との連携･協働について」

（2）学びのカンファレンス：施設実習２日目に各施設にて学生・担当看護師・教員で行う。
- 特別養護老人ホームとデイサービスセンターでのケア環境と看護の役割、多職種連携・協働について振り返り、施設実習で得た学びを発表する。

Ⅳ　実習記録

老年看護学実習の様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 小児看護学実習 | 時期 | 3年次　前期･後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 科目の概要 | 子どもの成長発達、生活状況、健康状態を理解し、変化する社会の中で子どもと家族を取り巻く環境やその影響を捉え、子どもが健康に発達するために必要な看護援助について学修する。保育園･小学校での子どもとの触れ合いをとおして、乳幼児期及び学童期の子どもの成長･発達の特徴と、個別性を重視した関わりの実際を学ぶ。健康障害をもつ子どもを受け持ち、成長･発達段階及び健康状態に応じた看護の実際をとおして、子どもの最善の利益を守るための看護師の役割について学ぶ。 | | |
| 目 的 | 小児期にある対象とその家族を理解し、看護を実践するための基礎的能力を修得する | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1　乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴と、個別性を重視した関わりの重要性を理解する | 1）乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴を述べる<br>2）乳幼児期の子どもの日常生活行動の自立状況及びコミュニケーション能力に応じた関わりを実践する<br>3）ひとりひとりの成長・発達に応じた保育の実際を述べる<br>4）乳幼児期の子どもの成長・発達を支える保育環境を述べる |
| 2　学童期の子どもの成長・発達の特徴と、学校保健の実際を理解する | 1）学童期の子どもの成長・発達の特徴を述べる<br>2）学童期の子どもの健康課題を述べる<br>3）学童期の子どもへの健康の保持・増進活動から学校保健の実際を述べる |
| 3　入院している子どもと家族の状況が、子どもの成長発達や生活状況、家族に及ぼす影響を理解する | 1）入院に至った経緯と現在の状況を説明する<br>2）入院前の成長・発達の状況を説明する<br>3）入院に伴う日常生活行動の自立状況の変化や予測される変化を説明する<br>4）入院に伴う家族の役割の変化や影響を説明する |
| 4　入院している子どもと家族の支援に必要な基本的看護技術を修得する | 1）子どもの成長発達に合わせたかかわりを実践する<br>2）子どもの成長発達に応じた事故予防への対策を実践する<br>3）子どもの健康障害及び成長発達に合わせたバイタルサイン測定を実践する<br>4）家族の役割変化や不安に配慮したかかわりを説明する |
| 5　病棟看護師の子どもと家族へのかかわりの実際から、子どもの最善の利益を守る看護の重要性に気づきを示す | 1）子どもの意思決定を支えるかかわりに気づきを示す<br>2）子どもと家族の生活を支える看護の実際に気づきを示す<br>3）子どもの最善の利益を守る看護師の役割について記述する |
| 6　小児科外来の特徴と看護の実際を理解する | 1）治療・処置・検査の実際を見学し、必要なケアを説明する<br>2）通院治療を受けている子どもと家族への看護の役割に気づきを示す |
| 7　NICU の特徴と看護の実際を理解する | 1）NICU における子どもの看護の特徴を述べる<br>2）NICU における子どもとその家族を支える看護の役割に気づきを示す |
| 8　看護専門職としての倫理観をもったふさわしい態度を身につける | 1）子どもや家族に対し思いやりと責任ある態度でかかわる<br>2）倫理的態度で実習に臨み、必要な報告・連絡・相談を行う<br>3）主体的に実習に臨み周囲への影響を考慮した対応をする（身だしなみ、言葉使い、挨拶、約束・ルールを守る、学習、カンファレンス、心身の健康管理） |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間（日数） |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内実習 | 5 H　(1 日) |
| 健康な乳幼児の成長発達・保育の実際 | 保育園 | 13 H　(2 日) |
| 健康な学童期の成長発達・学校保健の実際 | 小学校 | 6.5 H　(1 日) |
| 健康障害を持つ小児と家族を理解し、発達段階、健康問題にあわせた看護 | 県立新発田病院（病棟） | 32.5 H　(5 日) |
| | 県立新発田病院（小児科外来） | 6.5 H　(1 日) |
| | 県立新発田病院（NICU） | 6.5 H　(1 日) |

Ⅲ　実習方法

1）保育園実習では、子どもたちと触れ合い、様々な発達段階にある子どもと個別性に合わせた保育の実際を学ぶ。

2）小学校実習では、授業参観やふれあいをとおして、学童期の子どもの成長・発達や発達課題を学び、養護教諭から学校保健の実際について説明を受ける。

3）小児病棟実習では、健康障害を持つ子ども（0～15 歳）を受け持ち、入院が子どもと家族へ及ぼす影響を考えながら、子どもの成長発達に応じた関わりを実践する。また、看護師のかかわりを見学し、子どもの最善の利益を守る看護の重要性を学ぶ。

4）小児科外来実習では、小児科外来の特徴と、看護の実際を見学する。

5）NICU 実習では、NICU の特徴と看護の実際を見学する。

6）実習の日程（各実習グループにより日程が異なる）。

| 1 日目 | 2 日目 | 3 日目 | 4 日目 | 5 日目 |
|---|---|---|---|---|
| 学内オリエンテーション（5H）<br>・事前課題・自己学習の確認・DVD 視聴、技術演習（必要時） | 保育園 | 保育園 | 小学校 | NICU または小児科外来 |
| 6 日目 | 7 日目 | 8 日目 | 9 日目 | 10 日目 |
| 病棟オリエンテーション<br>患児を受け持つ | 毎日の実習記録 → | | | 最終カンファレンス |
| 11 日目 | | | | |
| 小児科外来または NICU | 記録提出 | | | |

Ⅳ　実習記録

小児看護学実習の様式による

Ⅳ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 母性看護学実習 | 時期 | 3年次　前期･後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70 時間)、11 日間 |
| 科目の概要 | 妊娠期の看護では妊婦健康診査･保健指導の見学を通し、妊婦の身体的･心理的･社会的側面の看護を学ぶ。分娩期の看護では経腟分娩･帝王切開術の経過から産婦の身体的･心理的変化とその看護を学ぶ。産褥期･新生児期の看護では褥婦、新生児を受け持ち、母児を一体化してとらえ看護過程を展開し、セルフケア能力を活かした看護を実践する。多職種連携、社会資源活用の必要性を理解し家族を含めた対象への看護の役割･機能を学ぶ。 | | |
| 目 的 | 妊娠期･分娩期･産褥期･新生児期にある対象と家族を理解し、看護を実践するための知識、技術、態度を修得する | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1 妊婦と家族を理解し、妊娠期に必要な看護を説明する | 1）妊娠に伴う身体的変化を説明する<br>2）妊婦の心理・社会的変化を説明する<br>3）妊婦健康診査および保健指導の目的・意義を説明する |
| 2 産婦と家族を理解し、分娩期に必要な看護を説明する | 1）産婦の身体的変化を説明する<br>2）分娩各期および帝王切開術に関連した看護を説明する<br>3）分娩室の設備・構造・環境の目的・特殊性を説明する |
| 3 褥婦と家族を理解し、対象に必要な看護を実践する | 1）褥婦の身体的変化を説明する<br>2）褥婦の心理・社会的変化を説明する<br>3）妊娠期・分娩期および産褥経過の情報を収集する<br>4）収集した情報を統合しアセスメントする<br>5）対象の母児を一体化して捉え、必要な看護を明確にする<br>6）対象の個別性を踏まえた看護計画を立案する<br>7）計画した看護を対象のセルフケア能力を考慮し実践する<br>8）実践した内容を振り返り評価する<br>9）産褥期における指導の目的・意義を説明する |
| 4 新生児と家族を理解し、新生児期に必要な看護を実践する | 1）新生児の身体的特徴を説明する<br>2）新生児に必要な看護・処置・検査・治療を見学し目的・意義を説明する<br>3）胎児期・出生時新生児経過の情報を収集しアセスメントする<br>4）安全安楽に配慮して看護技術を実践する |
| 5 母性看護の対象と母性保健について説明する | 1）母性看護の対象と多職種連携、看護の役割・機能について説明する<br>2）母性保健に関連する社会資源について説明する<br>3）母性看護学実習を通して自らの体験をふまえて学んだことを、引用・参考文献を用いて考察し、記述する |
| 6 看護専門職として相応しい態度で実習に臨む | 1）対象や家族に対し思いやりと責任ある態度で関わる<br>2）倫理的態度で実習に臨み、必要な報告・連絡・相談を行う<br>3）主体的に実習に取り組み、メンバーシップを発揮する |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間（日数） |
|---|---|---|
| オリエンテーション<br>母性看護技術演習 | 学内 | 5H（1日） |
| 妊娠期の看護 | 県立新発田病院（産科外来） | 6.5H（1日） |
| 分娩期にある対象の看護<br>産褥期にある対象の看護<br>新生児期にある対象の看護 | 県立新発田病院（病棟） | 52H（8日） |
| 学内実習<br>テーマカンファレンス | 学内 | 6.5H（1日） |

Ⅲ　実習方法

1）1日目は学内で技術演習（妊婦の腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、褥婦の子宮復古の観察、新生児の沐浴）を行う

2）病棟実習では対象を受け持ち、看護過程を展開し看護を実践する

（1）受け持ち対象は1組の褥婦と新生児

（2）褥婦・新生児を受け持つことができない場合は入院中の妊婦または産婦

3）受け持ち対象がいない場合は同行実習をする

4）実習期間中の1日は産科外来で妊婦健康診査、保健指導を見学する

5）11日目は学内実習をする

（1）ロールプレイング（褥婦への指導）

（2）テーマカンファレンス

6）実習の日程

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|
| 学内オリエンテーション<br>学内母性看護技術演習<br>（5H） | 病棟オリエンテーション<br>受け持ち実習開始<br>外来オリエンテーション | | 受け持ち３日目<br>看護の方向性カンファレンス | 受け持ち４日目<br>看護計画カンファレンス |
| 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
| 産科外来実習<br>（実習期間中の1日間） | 中間評価 | | | 最終カンファレンス |
| 11日目 | | | | |
| 学内<br>ロールプレイング<br>テーマカンファレンス | 記録提出 | | | |

7）テーマカンファレンスの内容

テーマカンファレンス：テーマに合わせて実践内容をもとにメンバーが意見を出し合う

・実習最終日（学内日）に学内で学生・教員で行う。

・受け持った事例をもとに以下のテーマを参考に、グループで深めたいテーマを検討する。

・カンファレンス前に各自必要な資料を準備する。

・グループリーダーがメンバーと話し合いテーマを決め前日までに教員に報告する。

【テーマの例】

〇正常な分娩・産褥経過をたどるための妊娠期の介入

〇セルフケア能力を活かす指導とは

〇分娩を振り返る意義

〇母児相互作用を高めるには

〇家族再構築の支援

〇社会資源を有効に活用するには

Ⅳ　実習記録

母性看護学実習の様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 精神看護学実習 | 時期 | ３年次 前期 後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 2単位(70時間)、11日間 |
| 科目の概要 | 精神看護学の知識・技術を活用して精神科病棟および施設で実習を行う。<br>病棟実習では、精神障害により生じる様々は影響をふまえて、障害とともにその人らしく生きることを支えるために必要な看護について学ぶ。施設実習では、精神障害をもちながら、その人らしく地域で生活を送るために必要な社会資源やサービスや精神に障害のある人を支える医療チーム(多職種)との連携について学ぶ。 | | |
| 目 的 | 精神に障害のある対象とその家族を理解し、健康上の課題が日常生活に及ぼす影響を把握し、対象がその人らしく生活するために必要な看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を修得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1　精神に障害のある対象とその家族を理解する | 1）対象を身体的側面から説明する<br>2）対象を心理的・社会的側面から説明する<br>3）対象とその家族のかかわりの経過を説明する<br>4）対象の入院形態とその法的根拠を説明する<br>5）精神障害・精神症状が日常生活に及ぼす影響を記述する<br>6）対象の受けている治療が日常生活に及ぼす影響を記述する<br>7）治療的環境が対象に与える影響を説明する |
| 2　精神に障害のある対象の健康課題を把握し、自立に向けた看護を実践する | 1）精神症状・日常生活・社会的背景等収集した情報を関連づけて解釈・分析する<br>2）対象が抱える健康課題を抽出する<br>3）達成可能で具体的な看護目標を設定する<br>4）対象の強みを生かした援助を実施する<br>5）精神症状を考慮した援助を実施する<br>6）対象の自立性・継続性を尊重した援助を実施する<br>7）人権を考慮した安全・安楽な援助を実施する<br>8）実施した援助の結果や対象の反応を述べる<br>9）実施した看護を評価・修正し記述する |
| 3　プロセスレコードを用いて自己を振り返り、自分の対人関係の傾向と特徴を考察する | 1）対象の反応・言動と自己の言動・感情の意味を記述する<br>2）対象と自己の言動・感情が相互に影響していることを記述する<br>3）対象との対人関係における自己の傾向・特徴を考察する |
| 4　精神に障害のある対象が地域で生活するための支援について理解する | 1）サービスを利用している対象の生活状況について述べる<br>2）地域で生活する対象への支援について述べる<br>3）社会復帰に向けた多職種連携の実際と看護の役割について自己の考えを述べる |
| 5　看護専門職としてふさわしい態度を身につける | 1）看護チームの一員としての自覚をもち、看護師を主とする医療スタッフや教員、グループメンバーとの報告・連絡・相談を実施する<br>2）体調を管理し、欠課・欠席がない<br>3）自らの課題解決に向け、主体的に学習し続ける |

Ⅱ　実習構成

| | 実 習 場 所 | 実習時間（日数） |
|---|---|---|
| 学内実習 | 学内 | １2H（2日） |
| 精神に障害のある対象の看護 | 県立新発田病院（病棟） | ４8H（7．5日） |
| 地域で生活する精神に障害のある対象への支援 | 県立新発田病院（デイケア） | 4H（0．5日） |
| | 障害福祉サービス事業所 | 6H（1日） |

Ⅲ　実習方法

1）学内実習（1日目）では、実習オリエンテーション（病棟・施設の概要や注意点等）を実施するとともに、受け持ち患者情報に基づき、自己学習内容の確認および実施を行う。

2）病院実習では、対象を受け持ち、強み・持てる力を活かしながら看護過程を展開する。

3）デイケア・障害福祉サービス事業所では、利用者への支援の実際を見学し、可能な範囲で活動への参加やコミュニケーション等により、利用者の生活状況や思いを知る。

4）学内実習（１１日目）では、病棟実習で受け持った事例を用いて、対象が安心してその人らしく暮らすことができるよう、医療・障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労など）地域で生活するために必要な支援と看護の役割について考え、グループメンバーで意見交換を行う。（多職種連携含む）

5）実習日程及び内容

※　病棟実習②～⑧の間に、デイケア実習（午前のみ）があります。

| 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 |
|---|---|---|---|
| 学内実習（6H）<br>・実習ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>・事前学習・自己学習の確認<br>・受け持ち患者の概要 | 病棟実習①（6.5H）<br>・病棟ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>・受け持ち患者の情報収集や援助の実際の見学 | 病棟実習②（6.5H） | 病棟実習③（6.5H）<br>・看護の方向性ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ |
| 5日目 | 6日目 | 7日目 | 8日目 |
| 病棟実習④（6.5H）<br>・看護計画ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 病棟実習⑤（6.5H） | 病棟実習⑥（6.5H） | 病棟実習⑦（6.5H） |
| 9日目 | １0日目 | １１日目 | |
| 病棟実習⑧（6.5H）<br>・学びのｶﾝﾌｧﾚﾝｽ | 障害福祉サービス事業所（6H） | 学内実習（6.5H）<br>・障害福祉ｻｰﾋﾞｽ事業所の概要<br>・地域で生活するために必要な支援と看護の役割について（まとめと意見交換） | 記録提出 |

Ⅳ　実習記録

精神看護学実習の様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する

| 科目名 | 統合実習 | 時期 | 3年次 後期 |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 看護師として５年以上の実務経験を有する専任教員 | 単位(時間)、日数 | 3単位(105時間)、15日間 |
| 科目の概要 | 本実習は、領域別実習を終えた後、看護師の実務に近い形で看護を実施することを体験し、臨床へつなげるものである。具体的には、時間を意識して1日の行動計画を立案する思考や状況判断力の基盤を学び、複数患者の受け持ちを通し、優先順位を考え、患者に必要な援助を実践する。また、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解すること、 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につけること、医療安全の基礎的知識を修得する。そして、看護専門職業人としての自己の課題を明確にするとともに、自己研鑽する能力を養うものとする。 | | |
| 目 的 | チーム医療を担う看護専門職業人としての役割と責任を自覚し、既修の知識、技術、態度を統合しながら看護業務遂行におけるタイムマネジメントと役割分担、優先順位を考えた看護実践能力を修得する。 | | |

Ⅰ　実習目標・行動目標

| 実 習 目 標 | 行 動 目 標 |
|---|---|
| 1　看護管理・病棟管理の実際を理解する | 1）病院組織における看護管理の実際について記述する<br>2）病棟管理者の役割から看護サービスのマネジメントの実際について記述する<br>3）看護サービスのマネジメントにおける自己の考えを記述する |
| 2　看護チームのリーダーおよびメンバーの役割を理解する | 1）チームにおけるリーダーの役割からリーダーシップの実際について記述する<br>2）チームにおけるメンバーの役割からメンバーシップの実際について記述する<br>3）リーダーシップ・メンバーシップの実際をふまえて自己の役割と課題を記述する |
| 3　看護実践における臨床判断の思考過程の実際について理解する | 1）看護師の看護ケア場面における臨床判断過程の実際を記述する<br>2）看護師の臨床判断過程の実際をふまえて自己の考えを記述する |
| 4　複数の患者を受け持ち、優先順位・時間管理をふまえ、患者の個別性に合わせた看護を実践する | 1）受け持ち患者の病態・病状をアセスメントし、看護の方向性を記述する<br>2）受け持ち患者の看護援助について、優先度と時間管理を考慮して１日のスケジュールを計画する<br>3）状況に応じたスケジュール修正の理由・根拠を述べる<br>4）状況に応じて看護師と援助の調整をする<br>5）状況に応じた援助の追加・修正をする<br>6）時間管理を考慮した援助をする<br>7）受け持ち患者の病態・病状に合わせて安全・安楽・自立を考慮した援助を実践する<br>8）援助における応援・協力を要請する<br>9）状況変化に合わせて報告・連絡・相談する<br>１０）実施した援助を客観的・多角的に評価し、翌日の援助につなげる |
| 5　病棟における医療安全管理体制と具体策を理解する | 1）組織における医療安全体制の実際について記述する<br>2）病棟で行われている医療安全対策の実際について記述する<br>3）組織の医療安全対策に基づき行動する<br>4）病棟の医療安全の取り組みをふまえて医療安全について自己の考えを記述する |
| 6　療養を継続するための医療・看護組織のシステムと地域および専門職間の連携の実際を理解し、チーム医療における看護の役割と機能を理解する | 1）一貫性・継続性ある看護ケアの提供システムについて記述する<br>2）地域連携および専門職間連携の実際を理解し、看護の役割・機能について記述する<br>3）患者サポートセンターの設置背景・役割・機能を理解し、継続看護の必要性について自己の考えを記述する |
| 7　専門職業人として主体的に学習し、倫理に基づいた責任ある看護を実践する | 1）看護の倫理に基づき看護を実践する<br>2）看護チームの一員として、責任を自覚した態度・行動がとれる<br>3）自らの課題解決に向けて、主体的に学習し続ける<br>4）実習での学びを振り返り、今後の課題や目標について述べる |

Ⅱ　実習構成

| 実習内容 | 実習場所 | 実習時間 |
|---|---|---|
| 実習オリエンテーション | 学内 | ６．0H |
| 統合実習のまとめ | | ６．0H |
| 看護組織における看護と臨床判断の実習 | 県立新発田病院（病棟） | ３７．５H |
| 複数受け持ちの実習 | 県立新発田病院（病棟）および学内 | ４５．0H |
| 入退院支援と継続看護実習 | 県立新発田病院（患者サポートセンター）および学内 | １０．５H |

Ⅲ　実習方法

1）病棟実習は「看護組織における看護と臨床判断の実習」「複数受け持ちの実習」「入退院支援と継続看護実習」を実施する。

①　看護組織における看護と臨床判断の実習では、看護師長・リーダー・スタッフと行動を共にし*、看護チームの各職種の役割と責任、チームワークの実際の場面を見学し、１つ１つの行動に対する根拠（何のために行うのか、何のための配慮・工夫なのか等）について考える。

＊　同行実習ではなく、シャドウ実習である。
シャドウ実習とは、ロールモデルとなる看護師の行動や言動、態度、現場の雰囲気など全体を広く観察することを指す。

②　複数受け持ちの実習では、２名の患者を受け持ち、病棟で立案されている看護計画に基づき安全・安楽な看護を実践する。看護チームの一員として役割と責任をもって行動するよう、受け持ち患者の状態や治療・処置等の予定はもちろん、チーム及び病棟の動きや予定等をふまえて受け持ち患者間における１日のスケジュールを調整する。

③　入退院支援と継続看護実習では、県立新発田病院患者サポートセンタースタッフによる講義・演習を行った後、看護活動の実際について担当者に同行・見学する。

2）学内実習は、実習オリエンテーションの他に「対象理解」「統合実習のまとめ（グループワーク・発表）」を実施する。

①　対象理解では、収集した患者情報（疾患：現疾患および既往歴・治療・検査・日常生活の状況）を整理し、病棟で立案されている看護問題・看護計画をふまえて対象の全体像・看護の方向性を考える。

②　統合実習のまとめ（グループワーク・発表）では、既修の知識や統合実習での実践をふまえ、「看護チームの一員として働くために必要なこと」「安全な医療への取り組み」について考察し、今後の自分の課題を明確にする。

3）実習日程及び内容については【別記】参照

Ⅳ　実習記録

統合実習の様式による

Ⅴ　実習評価

実習評価表に基づき評価する